『こども芸術と教育』創刊に寄せて

京都造形芸術大学学長　尾池和夫

「こどもこそ未来」を合言葉として、京都造形芸術大学では「こども芸術大学」を運営し、自然と芸術のなかでこどもたちの成長を見守ってきました。本来、こどもは芸術そのものと言ってもいいかもしれません。親と一緒に活動しながら、こどもが持つ力が発揮されるように環境を整え、大人たちはこどもから多くのことを学んできました。その豊富な蓄積から、自然に生まれて磨きこまれた単純なことばが「こども芸術」という一語です。

京都造形芸術大学こども芸術学科では、カリキュラムを通して、「こども」と「芸術」を学んだ若い感性が、新しい保育と、新しい幼児教育を創り出しています。こどもの気持ちをしっかりと受け止める能力、その力を読み取る想像力、こどもの可能性や表現を広げる柔らかな創造力を持つ人間を育てるのが、この学科の特長です。

「こども芸術」とは、その「こども」と「芸術」が融合して自然に生まれたことばなのです。一つのキャンパスの中に 1 歳から 96 歳までの人たちが集い、認可保育園との連携授業で、学生たちは専門性を深めます。こどもたちは、じっと見守っていることによって、答えのない問いを発しつつ、考え、選びます。その積み重ねが、自らの一生を創造します。土のなかの生き物を観察し、芽を出した木の成長を見守り、木の実をついばむ鳥たちの声を聴いて自然の変化を感じとった力は、その感動をやがて誰かに伝える力を生み出します。それは本物の力です。

「こども芸術」の体験を得た人たちが、その経験を多くの人たちと分かち合う場が初めて生まれ、この『こども芸術と教育』という総合誌になりました。本誌がますます発展していくことを心からお祈りいたします。

2019 年 2 月 28 日木曜日
京都造形芸術大学の学長室にて